



社員の高い労働意欲

令和 8 年 1 月 14 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

社員が意欲を失うとき、企業は自己を失う。これらが企業の健全性の構築の必要性である。

これら倫理的な判断は、健全な社員の意欲の形成は、必ずその倫理的な向上において求められるものであり、それら企業の判断が企業経営の健全性を実現できるものである。

これら意欲は結果を生むことができる。最も優れることは、その目的を企業において与えられることであり、その責任感は現実を与えるものである。

これら健全な労働環境や就業環境は、社員が健全な労働意欲を共有し、正しい企業経営の実現を与えることができるのである。

強制は、必ずその意欲をそぐものであり、自覚におけるその責任と行動が正しい現実なのである。

企業が社員に対して与えるものが、社員が企業に対して与えるものである。

これら健全な環境と経営が、企業において現実を与えるものであり、それらは健全な意欲が健全な現実を生み出すことなのである。

これらは正しい経営判断であり、それらは企業経営の健全性を実現できるものである。

企業内において誤ったコンセンサスを得ることは、誤った現実を生む出すことであり、健全な意欲をそぐものである。

これらはすべての企業経営の結果であり、経営者に要求される責任なのである。